

## 第2回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

- 1 日 時 令和5年10月27日（金）14時～16時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 概要・骨子

### 【市長あいさつ】

第1回（8月21日開催）においては、本格的なご議論をいただき感謝申し上げます。鳥取駅周辺では、美保地区を中心としたAIによるオンデマンド交通の実証事業や国の補助事業による中心市街地での自動運転の実証事業、JR西日本と連携した駅北側のケヤキ広場における新たな実証事業等、様々な取り組みが動きだしている。

本日の第2回目の会議においては、再整備の基本方針、目指す将来像等について、活発な意見・ご提言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 【議題（1）鳥取駅周辺憩いのある賑わい創出実証事業アンケート結果（中間報告）

事務局から説明】

資料により説明

### 【議題（2）①鳥取駅周辺再整備のビジョン・基本方針について 事務局説明・意見交換】

資料により説明（資料1、～P3まで）

#### 1. 駅前からまちなかへの波及・しみ出しの必要性

- ・ 交通ターミナルや歩行者空間の整備だけでは、まちが抱えている課題は解決できないため、人口減少下においても賑わいを創出し続ける方法を考えながら、賑わいを創出し、民間投資を呼び込めるかが重要である。

#### 2. 文化施設等の集約・統廃合の問題

- ・ 市民会館等の老朽化に伴う再編の検討に併せて、新たな文化芸術機能を持つ拠点を駅周辺に集約することは、中心市街地の再生には効果的である。
- ・ 老朽化する文化施設については、耐震性の問題も生じてくるため、鳥取駅を中心として、施設の複合化、統合化など、機能集約を考えていくことも必要。

#### 3. 目指す将来像やことばの意味・込めた思いへのご意見

- ・ 目指す将来像のワクワクが止まらないという部分は非常に気に入っている。公共施設の機能集約に加えて、民間企業とも連携しながら、賑わいが生まれる商業機能等を誘致してこくことも重要である。
- ・ サブタイトルの「駅のミライのカタチ」には、「駅からはじまるミライのカタチ」など駅から“はじまる”といった広がりや、「次の50年へ」には、「みんなで一緒に考える」

だけでなく、「必ず変える」や「みんなでやり遂げる」といった強い表現が欲しい。

- ・ 人口減少に対して、緊張感をもって取り組みを進めていくべきであると考えている。
- ・ 今後の50年に進むという印象を持った。価値観も一様だったものが多様化するなど、変化しつつある。50年前のまちづくりは行政が進めるものだったが、これからは市民の主体性がポイントになる。
- ・ 「未来創造ステーション」は、ワクワクした印象を持った。外部環境が厳しい中で、どうやって抗っていくのか、その決意が表現されていると感じた。
- ・ 「未来創造」の説明にある人の流れと出会いという言葉には、交流が新しいものを生み出し、それが新たなビジネスに繋がることも期待される。それを金融機関として、支援する流れができるとよい。また、教育や人材を生むといった表現があると更に厚みが増すと感じた。
- ・ 教育、人材育成など再生産ができるような人の流れ、旅行者が鳥取に住んでみたいと思ひ、移住に繋がる人の流れができればよいと感じた。

#### 4. 駅も含めた検討の必要性

- ・ 駅前広場だけでなく駅の建て替えの可能性なども含めて一体的にリ・デザインを考えていく必要があるのではないか。
- ・ 駅の鉄道高架部分については、耐震化も完了しており、周辺のまち全体改変や、例えば、新幹線整備等が無い限りは、建て替えの予定はない。

### 【議題（2）②駅前等の機能配置案について 事務局説明・意見交換】

資料により説明（資料1、P4～及び資料2）

#### 1. 交通ターミナルのあり方について

- ・ 鳥取駅は駅、バスターミナル、既存駐輪場が離れており、学生らの利便性が悪く放置自転車が発生している状況がある。整備イメージのように駅とバスターミナルが集約できれば、駅とバスの乗換の利便性も向上すると感じた。
- ・ 駅北側についても商店街方面からバスターミナルに行く人が地下通路を通る時には、立地的には近いようでも移動が遠いという課題がある。
- ・ 交通ターミナル機能として、自転車、レンタカー、レンタサイクルの要素も含めておく必要がある。
- ・ 学生は、鳥取駅で列車、バス、自転車等に乗り換えて学校へ行くため、交通機関の近接性にも配慮した検討が必要である。
- ・ バス・タクシーと一般車両の分離の配慮に加えて、一般車等がバスターミナルに誤侵入することへの配慮も必要と考えている。
- ・ 今後は、公共交通機関が優先され公共交通や駐輪場、レンタカーなどの機能を集約・再編していくべきであるが、一方で、例えば、一般車両の乗降や駐車場を駅南側へ集約させ、ウォークアブルを促進させる機能の集約・分散についても視野に入れた検討・議論

も考えられる。

- ・ 鳥取市では、自動運転や新しいモビリティの検討も進んでおり、バスやタクシーの重要性がゆらぐことは一切ないが、災害時の余裕スペースのご意見も含めて、交通ターミナル内の機能の検討も進めていただきたい。
- ・ 自動運転など交通に関しては、今後どの交通モードが先行して導入されていくのか、将来が非常に読みづらく、計画を更新や見直しするタイミングについても計画の中で明記したほうが良いのではないか。

## 2. 寒冷地における視点

- ・ 鳥取では大雪が降った際には、除雪作業によるバス待機スペースへの一時的な雪の堆積が原因で、ターミナルにバスが着けられないという問題もある。寒冷地でのターミナルの運用等についても今後、参考情報を提供いただきたい。
- ・ 防災機能としてもバスターミナルには、何かあった際にはある程度の量の台数が止められるように余裕を持った検討が重要である。余裕スペースがあることで、降雪時の雪を固めて置く場所や、降雪でバスのタイヤが乱れて、車庫へ帰れないときの一時的な待機場所の確保なども必要であると考え。
- ・ デッキ広場については、降雪時の対応や設備投資の面で幅が広いものはどうなのかという感想を持った。
- ・ 寒冷地では、平面駐車場が雪に弱く、立体駐車場が必要であると感じている。駅前の再整備により、市内外の来訪者、観光客も賑わいを求めて訪れるようになり、駐車場の需要は増してくるため、立体駐車場についても検討する必要がある。

## 3. まちの顔としての役割（ワクワク機能）について

- ・ 「ワクワクが止まらない」は市民の方のワクワクもあると思うが、鳥取へ来る方の動機付けにもなるような発想が必要であり、第一印象を与えるのが駅周辺の役割であり、例えば、改札を降りたら鳥取砂丘のようなものや、星が瞬く夜空をイメージするプロジェクションマッピングなどのインパクトの強いものも必要と感じた。
- ・ 駅には砂丘をイメージする砂像、砂場や、足湯や公衆浴場などを設けて、そこから砂丘行のバスが出発するなど、砂丘をイメージできる施設・設備が必要ではないかと思う。
- ・ 駅を降りたら、これが鳥取だと感じられる、それは、何機能と表現すべきか、福井や金沢は駅を出ると圧倒されるが、そのような広報・PR機能も必要であると感じた。
- ・ 駅前の機能としては、コンベンション施設のような活用も視野に、1施設1機能ではなく、多様な使い方も含めた検討が有効である。
- ・ 駅前には梨棚があるが大きな案内板で全く見えない状況であり、例えば、梨棚の横に足湯や砂場があれば地元の方も喜び、お金も掛からないホスピタリティの充実、強化が期待される。

## 4. まちなかへの賑わいの波及・連携の必要性

- ・ 駅前以外の周辺地域である既存アーケードや商店街等との一体化した再整備は必要であり、金融機関としても地元の事業者を応援したく、駅前に商業機能が示されているが、駅だけが賑わうのではなく、商店街など地元事業者も含めて相乗効果で盛り上げていただきたい。
- ・ 福井や金沢のような全天候型の屋根があると商店街のイベントとも連携して賑わいが生まれると感じた。
- ・ 商店街連合としても期待感・危機感を非常に持っている。駅の賑わいが駅前だけで終わらず、どのようにしてまちなかへ流れていくようにできるかを考えていくことも重要であり、商店街としても頑張っていきたいと考えている。駅づくりは、まちづくりという視点で考えていきたい。

#### **5. まちづくりにおける鳥取駅の位置づけについて**

- ・ 鳥取市としてどのような方向を目指しているのかが重要で、人口が減っていく中で、何をして鳥取市は生き残っていこうとしているのかを議論することが重要である。
- ・ 商業機能については、既存の丸由百貨店等の商業施設がある中で、どういう方向性で共存させていくかなど、大きなことをまずは議論した方が良いのではないかと感じた。
- ・ 基本的な考え方として、鳥取駅をまちとしてどのように位置づけるべきか、駅周辺の商店街や住宅地との関係やそこを結ぶネットワークなど都市構造としての理念的なものは考えていくべきであると感じた。
- ・ 駅前の開発、駅周辺の開発整備だけではなく、鳥取市としてどうしたいかとの意見があり、大きな方向性についても検討していくべきであると感じた。子育ての視点も重要であるが、問題提起もあったが、観光立県についてどう考えていくのか、まちなかへの広がりを持たせた取り組みについても盛り込んでいく必要があると感じた。
- ・ 鳥取市として何をPRするのか、再度練り直していただきたく、引き続き、これからの50年のブランディングとして取り組んでいただきたい。

#### **6. 若者・子育て世代にやさしい鳥取駅**

- ・ 普遍的な視点が子育てというキーワードであり、根本的な問題として、子供たちを遊ばせる空間などについてもしっかりと打ち出しがあった方がよいと感じた。
- ・ 子育ての目線は非常に重要で、施設集約の議論だけではなく、施設整備を通じて、子育てが一番の都市を駅からどうつくるかという視点は非常に重要である。
- ・ 日中、鳥取駅を使用するのは高校生が中心であり、夕方には、高校生がお迎え待ちなどで駅に集まっている。そのような駅に、ゆっくりと座る場所や、彼女と語らう場所、そうした場所で若い子たちが育つということにもしっかりと目を向けて、若者が有意義で健全な青春を送れる場所にしていきたい。

#### **7. 本プロジェクトの進め方・プロセスの重要性**

- ・ 今後、公共交通のあり方が変わるということも含めて基本方針を考えていくことは重要である。複合施設、民間施設の利用者は、J R利用者だけではなく、市民が買い物に

来る場合もあり、今後、官民対話として民間事業者との意見交換を進めることが重要である。

- ・ 本日の議論では、目指す将来像の言葉の意味の部分については、共通して好印象であったと感じている。これらの言葉は、市民との対話の材料としてブランディングに使っていくべきであり、鳥取に対するプライドを醸成することをこの事業を通じて、図っていくべきである。
- ・ 完成したあとの運営についても民間企業との連携やまちづくり公社のようなまちづくりを経営する組織が必要であり、施設の維持管理だけでなく、まちづくりを担う組織や仕組みは、早い段階で検討を始めることが重要である。
- ・ 駐車場は収益施設として、駅周辺の施設の維持管理やまちづくりの資金の原資としても考えていくことが重要である。

## **8. 人口減少への対応**

- ・ 人口減少を与条件にすべきではなく、若者が育ってから外へ出ていくのを食い止めるべきであり、今回のプロジェクトは、そのような社会減を減らし、更には、社会減に起因する自然減を減らすことが1つのミッションとして背負っていると考えている。
- ・ 人口が減っていくまちの駅をどう考えていくか戦闘態勢のような姿勢が必要で、人口減少と戦っていくには住みたい人を増やしていくしかなく、若い方や子育て世代が繋がる場所であることが重要である。